

戦略基本目標 5 自然環境調査を通じて情報を収集、整理、蓄積し、保全対策などでの活用

九州国際大学附属高等学校生物研究部 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州市の動植物調査

取組内容

目的・趣旨 フィールドワークを通じて、北九州市に生息する動植物を明らかにし、環境改善に役立てること。また、自然に精通した人材を育成すること。

活動内容 北九州市内のイエコウモリの生息状況の調査。
平尾台の洞窟棲コウモリの調査。
※2020年3月より、新型コロナウイルス感染予防のため洞窟調査の実施なし。

成果 これまでの活動を通じて、北九州市内においてイエコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ、モモジロコウモリ、ユビナガコウモリの生息を確認してきた。2017年にはキクガシラコウモリの出産保育コロニーを、2019年にはテングコウモリの生息を市内で初めて確認することが出来た。



課題 北九州市全域のコウモリ類の生息実態を明らかにすること。

今後の展開

北九州市に生息するコウモリ類の、より詳細な分布状況を明らかにする。

ジオ&バイオ研究会 八幡東区

実施内容

活動名称 北九州の多様かつ貴重なジオパーク資源を生かしたまちづくり

目的・趣旨 域内各地のジオパーク資源を学際的に調査研究し、できるだけ楽しく面白く解説(インタープリテーション)することにより、市民や観光客向けの学習資源化を図り、自然環境の維持保全ならびに北九州ジオパークの実現に貢献することを目指す。

活動内容 2011年の発足以来、毎年度月1回の月例会を実施してきたが、コロナ禍により中断。製作した「ジオかるた北九州」を活用して市民センターなどで遊びながら北九州のジオの魅力学ぶ講座を担当するとともにジオパーク設立支援事業のジオ普及活動に参画している。

成果 製作した「ジオかるた北九州」やすぐろくを活用した市民センターなどでの講座で、楽しく遊びながら子どもたちや高齢者などへ多様な北九州のジオ(大地)、バイオ(生物)、産業や歴史の魅力を発信できた。いのちのたび博物館主催のジオツアーなどに支援参加して北九州ジオパーク認定設立に向けて意識の醸成が進んだ。



市民センターや児童館に寄贈した「ジオかるた北九州」

「ジオかるた北九州」を使い北九州の魅力遊びながら楽しく学ぶ講座(平野市民センター)



「化石と地質を楽しむジオハイク」(若松北海岸)

課題 ジオパーク推進において当研究会が要望に応えられる組織となるために、会員の知識力・行動力・発想力等の強化を図り、環境変容に柔軟に対応できる組織づくりを行っていききたい。

今後の展開

自然環境保全と北九州ジオパーク実現を後押しする市民団体として、今後の北九州ジオパークの手續きの進展をフォローしていきたい。また、SDGs活動の出前講座などで「ジオかるた」を活用して北九州のジオの魅力を発信していきたい。

日本野鳥の会北九州支部 戸畑区

実施内容

活動名称 野鳥をシンボルとした自然保護活動

取組内容

目的・趣旨 2022年はコロナ禍の中でも感染予防しながら次の活動を行いました。楽しい探鳥会、野鳥の生態を調べる調査・研究、野鳥の生息環境を守る保護活動を3本柱として取り組み、市民のみなさんへの普及を図りながら、北九州市とその周辺をフィールドとして活動します。

活動内容 探鳥会：2022年は、22回実施(参加者は308名)
[22年12月末時点]
調査研究活動：ハチクマの渡り調査(探鳥会を兼ねる)、ガン・カモ・ハクチョウ類越冬調査、曾根干潟鳥類生息調査、鳥獣保護区内鳥類生息調査(福岡県委託による)を実施
保護活動：野鳥の違法な飼養・販売・捕獲の情報収集、風力発電が野鳥に与える影響の低減・回避のため関係機関と協議、曾根干潟の清掃活動
普及活動：小中学校、NPO団体等への出張探鳥会や講座依頼に対応
機関誌発行：支部報「北九州野鳥」を年12回発行



小学生への野鳥観察指導(曾根干潟)

成果 ①探鳥会や調査を実施の結果、北九州市における野鳥の動向を把握
②保護活動の成果が表れていないが、野鳥の代弁者としての役割は果たしている
③出張探鳥会や室内講座では好評を得ている

今後の展開

「野鳥も人も地球のなかま」を合言葉に、市民のみなさんと共に野鳥を通じて自然とふれあい、自然を守る活動をしていきたい。

4 市各部署の取組

戦略基本目標 1 自然とのふれあいを通じた生物多様性の重要性の市民への浸透

4-1 里地里山の持続的な利用～小倉南区発「日本のふるさと」推進プロジェクトの推進支援～

小倉南区役所 総務企画課

目的・趣旨

小倉南区には、数多くの農村地域(里地・里山)があるが、若者の流出や高齢化などにより、地区の活力が低下し、農地や山林が荒れ「日本のふるさと」とも言える美しい農村風景が失われようとしている。

一方、都市住民の中には、自然環境のなかでの生活やスローライフを希望するなど、心の豊かさを求める場所として、農山村地域を見直す動きがある。そこで、都市と農村の交流の中から里地里山をはじめとした農山村地域の豊かな自然や文化の保全を目指すもので、具体的には、平成16年9月より中谷地区を対象に、地区住民と小倉南区役所が協働して、都市住民も交えたワークショップを始めた。

内容

ワークショップの開催を通じて、地区における、まちづくり資源の発掘や再認識をし、それらを活かした目指すべき暮らしのイメージを共有し、都市住民との関わりを含めた、中谷地区まちづくり構想を、平成18年春に策定した。

構想に基づき、地区住民と小倉南区役所・環境局が協働して様々な取組を行っている。

中谷地区での主な取組

中谷ウォーキング in みなみ

中谷地区を実際に歩くことで、その魅力を体験してもらうとともに都市住民との交流を図っている。



今後の展開

- ・引き続き都市と農村の交流を図るため、エコツアー等で地元とのふれあい事業を実施。
- ・エコツアー参加者に対し、地元で行われる他の事業の開催案内や情報提供を図り、多くの人の参加を促す。

4-2 長野緑地「市民参加による農業体験教室」

建設局 公園管理課

実施内容

概要 長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、交流体験公園」を目指している。当事業では平成15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、地元住民が主体となり市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行っている。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山としての農村景観の維持を図る。

成果 買収済用地の維持管理経費の削減がなされるとともに、令和3年度は延べ886人の市民が参加している。※長野緑地整備完了後も同趣旨の事業の継続を検討しており、最終目標年度は未定。

今後の展開

「学習用田圃」及び公園計画地内の買収済用地の一部(計約0.8ha)及びその周辺において前年度に引き続き下記の活動を行う。

- ①野菜づくり教室
- ②農業体験(畑)
- ③農業体験(水田)
- ④花畑づくり・花壇づくり



4.3 学習プログラムの取組 建設局 公園管理課

実施内容

概要 本事業では、テレビや本、インターネットなどの「メディアから得た知識」ではなく、児童自身の「生きものとの出会いや触れ合いによる体験活動」を通して、生命の大切さや自分を取りまく環境について考え、理解を深めることを目的とし、「到津の森公園」が、市内及び市外の小学生や一般来園者に学習プログラムを提供している。

成果 平成17年度に事業開始以来、学校関係者及び参加児童からも大変好評を得ている。本プログラムは指定管理業務の一部として実施し、令和3年度は、35校2,380人が参加した。

今後の展開

引き続きプログラムを提供する。



4.4 中山間地域農業支援事業 産業経済局 農林課

実施内容

概要 中山間地域にある農地を保全し、良好な農村空間を維持するため、中山間地域の集落内での話し合いを基礎に定められた集落協定に基づき、農地を管理する集落（農業者）に対して交付金を支払う。

成果 水田等農地の自然環境や豊かな景観の維持、水質浄化、洪水防止、水資源のかん養など多方面にわたる環境保全の役割に着目し、優良農地の確保、農村原風景の保全に努めるとともに、次世代への継承を図った。

課題 中山間地域では、過疎化、高齢化が進み、農地の維持が困難になっている。今後、この傾向は加速すると考えられ、農村環境だけでなく農村そのものの存続が危惧される。



今後の展開

水田等農地の自然環境や豊かな景観の維持、水質浄化、洪水防止、水資源のかん養など多方面にわたる環境保全に取り組む。

◎対象農地:55.0ha

4-5 地産地消の推進 産業経済局 農林課・水産課

実施内容

概要

消費者の「食」に対する関心が高まる中、「新鮮」で「安全・安心」な農林水産物を求める声広がっている。そこで、生産者、消費者、飲食店、販売店、加工・製造者等が参加する地産地消サポーターへの情報発信や食のイベント等を通じ地産地消を推進し地元産の食を通じた地域の活性化を目指すもの。

成果

地産地消を推進することによって、食に関わる人々の顔が見える関係づくりを進めることができた。また、イベント等を通じ多くの人に北九州産の農林水産物を知ってもらい、地産地消を働きかけることができた。

課題

消費者に対する北九州産の農林水産物の認知度向上。ブランド化の推進。

今後の展開

産地見学会等の活動による農林水産業への理解促進、サポーター同士の相互交流や連携を進めるとともに、ブランド製品のPRを図り、地産地消をいっそう推進していく。



豊前海一粒かきのかき焼き祭り



北九州市農林水産まつり

※令和4年は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため中止

4-6 多面的機能支援事業(旧:農地・水保全管理事業)

産業経済局 農林課

実施内容

概要

農村地域における都市化や混住化の進行、また高齢化等に伴う集落機能の低下のほか、環境・景観等に対する市民意識の高まりを受け、地域が主体となって取り組む農地・農業用施設を守る共同活動に対して支援を行う。

成果

この施策では、高齢化や混住化の進行により弱まってしまった地域の「力」を、農業者と都市住民とが一体となって育成し、景観や環境に対する意識の高まりも加味しながら、共通の資源である農業の持つ多面的機能を守っている。

課題

農業の持つ多面的機能を守っていくためには、農業者だけでなく地域住民や企業、NPO等の多様な主体も参加し、共同活動を進めていくことが重要である。

今後の展開

多面的機能支援事業の取組を受け、自主的かつ自立した地域の活動が継続するよう、活動組織の安定的な枠組みを構築していく。



戦略基本目標 2 地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成

4-7 環境学習事業の推進

環境局 環境学習課

実施内容

概要 環境学習の総合拠点である環境ミュージアムにおいて、ガイドの解説や環境学習サポーターによるエコ工作・環境実験など、様々なプログラムを実施。また、環境マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」を活用した様々な媒体での情報発信等を行っている。さらに、多様な人々が、世界共通の課題である持続可能性の視点を持ちながら、身近な地域課題等に取り組むESD活動の全市民的な普及を目指すとともに、エコライフステージや環境首都検定をはじめとする施策を実施する。

成果

- ・環境ミュージアムにおける環境学習の推進。
- ・北九州市環境首都検定の実施。
- ・環境教育副読本や環境教育ワークブック「みどりのノート」を作成・配布。
- ・北九州ESD協議会を中心とした、ESDの普及・促進。
- ・北九州エコライフステージの実施。
- ・環境マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」を活用した環境施策の広報。

今後の展開

引き続き、環境学習の総合拠点である環境ミュージアムを中心として、市民に対し、効果的な学びの場を提供するとともに、ESDの普及や環境首都検定をはじめとする施策を実施する。



環境学習サポーターによるエコ工作



環境マスコットキャラクター「ていたん&ブラックていたん」



エコライフステージ



環境首都検定

4-8 自然環境に精通した人材の育成

～北九州市自然環境サポーターの取組～

環境局 環境監視課

目的・趣旨

「第2次北九州市生物多様性戦略」の基本目標「地球規模の視野を持って行動できるような高い市民環境力の醸成」を具体化していく施策として、自然環境に関心のある市民等を対象に自然に対する正しい知識や上手なつきあい方をテーマにした講義や実習（フィールドワーク）を行い、自然環境分野の人材（北九州市自然環境サポーター）育成を図っていく。この取組の一つが「北九州市自然環境サポーター養成講座」である。

内容

これまで、平成17年度～平成21年度（5年間）にかけて、講義や実習を実施し、195名が「北九州市自然環境サポーター」として認定された。こうして育成された「自然環境サポーター」は、里地里山での植樹活動、希少種の保全活動、自然観察講座の運営補助など幅広い活動を行った。また「響灘ビオトープボランティア」として55名活動中。

成果

- ・北九州市自然環境サポーターの方々のいろいろな活動に参加するきっかけづくり。
- ・北九州市自然環境サポーターによる各種保全活動の実践や、「第2次北九州市生物多様性戦略」を推進する母体「北九州市自然環境保全ネットワークの会」や既存NPO・団体の自然環境保全活動への参加などによる、活動の裾野の広がり。「響灘ビオトープ」の運営・管理をサポートする「市民力」の基礎ができた。



ビオトープ園内で活動する響灘ビオトープボランティア

今後の展開

・自然環境保全活動へのさらに多くのサポーターの参加の促進。